

川崎市民平和のつどい

●映画上映会のご案内



©この史代・双葉社/『この世界の片隅に』製作委員会

2018年8月13日(月)
13:00開会(12:30開場)

会場 川崎市高津市民館

武蔵溝ノ口駅下車徒歩1分
213-0001 高津区溝ノ口1-4-1
ノクティ2 12階 大ホール

◆入場料無料(定員600人)
この会に関するお問い合わせは
下記事務局へご連絡ください。

主催 : 川崎市民平和のつどい実行委員会
共催 : 原水爆禁止川崎市連絡会議
事務局 : 川崎市中原区下沼部1709-4 川崎教職員会館 044(433)9100

1982年6月8日、川崎市議会は全会一致で「核兵器廃絶平和都市宣言」を決議しました。この宣言は、「非核三原則」「核兵器廃絶」「軍縮」を三本の柱とする内容で構成されています。川崎市民平和のつどいは、川崎市民に平和の大切さを訴え、この宣言を実現していくために毎年市民による実行委員会を構成し、開催しているものです。

1945年8月6日広島に、そして8月9日には長崎におそろしい原子爆弾が投下され、一瞬にして20数万もの尊い命が奪われました。川崎市内において、現在でも600名をこえる方が被爆手帳をもっています。70年を過ぎたいまもなお、原爆後遺症に苦しめられています。

映画「この世界の片隅に」は、第2次世界大戦下の広島・呉を舞台に、大切なものを失いながらも前向きに生きようとするヒロインと、彼女を取り巻く人々の日常を生き生きと描いています。

昭和19年、故郷の広島市江波から20キロ離れた呉に18歳で嫁いできた女性すずは、戦争によって様々なものが欠乏する中で、家族の毎日の食卓を作るために工夫を凝らしていました。しかし戦争が進むにつれ、日本海軍の拠点である呉は空襲の標的となり、すずの身近なものも次々と失われていきます。それでもなお、前を向いて日々の暮らしを営み続ける姿が描かれています。

8月15日の終戦記念日を前に、私たちの大切な暮らしが戦争によって無残にも奪われてしまうことを再確認し、平和の大切さを考えたいと思います。戦後70年が過ぎ去り世代が変わる中で、私たちはしっかりと平和の大切さを考え、語り継いでいく必要があります。ぜひ、ご家族や多くの皆様でご参加ください。

映画「この世界の片隅に」
2016年製作 上映時間 126分
監督:片渕須直
原作:この史代(『この世界の片隅に』双葉社刊)

※会場内は飲食禁止となっておりますので、ご協力、お願いいたします。